



NEC Expressサーバ・ワークステーション
Express5800シリーズ

ESMPRO/ServerManager
(Windows NT版/Windows95版)

インストールガイド

商標について

ESMPROとExpressPicnicは日本電気株式会社の登録商標です。

EXPRESSBUILDERは日本電気株式会社の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、MS-DOSは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

NetWareは米国Novell, Inc.の登録商標です。

ATは米国International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Mylexは米国Mylex Corporationの登録商標です。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows NTはMicrosoft® Windows NT® Server network operating system version 3.51/4.0およびMicrosoft® Windows NT® Workstation network operating system version 3.51/4.0の略称です。

Windows 98はMicrosoft® Windows®98 operating systemの略称です。

Windows 95はMicrosoft® Windows®95 operating systemの略称です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

はじめに

このたびは、NECのExpress5800シリーズサーバ・ワークステーションをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本書はサーバ管理ユーティリティ「ESMPRO®/ServerManager Ver.3.4(Windows NT版/Windows 95版)」について説明しています。

Express5800シリーズサーバ・ワークステーションに添付されている「ESMPRO/ServerManager Ver.3.4(Windows NT版/Windows 95版)」は、本体が持つ機能をさらに拡張しクライアントサーバシステムでの信頼性を強化するものです。

Expressシリーズ本体の持つ機能を最大限に引き出すためにも、ご使用になる前に本書をよくお読みになり、ユーティリティを正しくお使いになるようお願い申し上げます。

本書では、「ESMPRO/ServerManager」と記載します。モデルによって異なる記載がある場合にのみ「ESMPRO/ServerManager(Windows NT版)」、「ESMPRO/ServerManager(Windows 95版)」と記載しています。

本文中の記号について

本文中では次の3種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。



ユーティリティや装置を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。



ユーティリティや装置を取り扱う上で確認をしておく必要がある点を示します。



知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

ソフトウェア使用条件

添付のCD-ROM内のソフトウェアを使用するにあたって、添付のソフトウェアのご使用条件をお読みになり、その内容についてご確認ならびにご承諾ください。

ユーザーサポートについて

ソフトウェアに関する不明点や問い合わせは別冊の「ユーザーズガイド」に記載されている保守サービスセンターへご連絡ください。また、インターネットを使った情報サービスも行っておりますのでご利用ください。

<http://www.express.nec.co.jp/>

Express5800仮想店舗『58番街』：製品情報、Q&Aなど最新Express情報満載！

<http://www.nefs.co.jp/>

NECフィールドサービス(株)ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介します。

ESMPROについて

ESMPRO®はExpressサーバの管理を行うユーティリティソフトウェアです。このソフトウェアは各種モデルに関係なくすべてのExpress5800シリーズ製品に添付のCD-ROMに入っています。Expressサーバ/ワークステーションの信頼性をさらに向上させるためにもインストールしておくことをお勧めします。

ESMPROを利用するにあたり、この項で説明されている内容をよく読んでください。また、ESMPROを使ってさらに高度なクライアントサーバシステムを構築する場合は別売の「ESMPROシステム構築ガイド Ver.2.0(UL9005-201)」を参照してください。この説明書はESMPRO製品をシステムで活用するためのガイドです。なお、インストール後の運用注意事項についてはアプリケーションのオンラインマニュアルにも記載しています。必要に応じて参照してください。

ESMPROは、Express5800シリーズ製品上で動作する「ESMPRO/ServerAgent」と管理コンピュータ上で動作する「ESMPRO/ServerManager」の2つのユーティリティから構成されます。

「ESMPRO/ServerManager」は管理コンピュータにインストールします。管理コンピュータはWindows NT 4.0/3.51またはWindows 95/98で動作しているコンピュータでなければなりません。

- Windows NT 3.51/4.0用
ESMPRO/ServerManager Windows NT版
- Windows 95/98用
ESMPRO/ServerManager Windows 95版



ヒント

- ESMPro/ServerManagerをExpressサーバ/ワークステーション本体にインストールしてもかまいません。
- 本装置ではRemote Wake Up機能(Wake On Lan)を使用して、ESMPRO/ServerManagerマシンからサーバの電源投入(Remote Wake Up機能)を行うことができます。この機能を使用するためには、ESMPRO/ServerManagerマシン上のオペレーションウィンドウで監視対象サーバのプロパティ画面を起動し、Remote Wake Up機能MACアドレスとRemote Wake Up機能IPブロードキャストアドレスに値を設定する必要があります。詳細については、Remote Wake Up機能のオンラインヘルプを参照してください。

「ESMPRO/ServerAgent」はExpress5800シリーズ製品にインストールします。Express5800シリーズ製品にインストールしているOSにより、以下の2種類があります。

- Windows NT 3.51/4.0用
ESMPRO/ServerAgent Windows NT版
- NetWare 3.2J/4.2(日本語版)/5(日本語版)用
ESMPRO/ServerAgent NetWare版



ヒント

- ESMPro/ServerAgentに関する説明については、「ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)インストールレーションガイド」またはユーザズガイドを参照してください。

動作環境

ESMPROを動作させることができるハードウェア / ソフトウェア環境は次の通りです。



製品ライセンスについて

ESMPRO/ServerManager(Windows 95版)とESMPRO/ServerManager(Windows NT版)の2つのモジュールが含まれますが、1ライセンスにつき1モジュールのみのインストールとなります。

● ハードウェア

- インストールする装置
本装置または他のExpress5800/50、100シリーズ
NEC PC98-NXシリーズ
NEC PC-9800シリーズ
PC/AT互換機
(Pentium(133MHz)以上のマイクロプロセッサを推奨。また、1.44MBフロッピーディスクを使用できるドライブを搭載した装置)
- メモリ
OSの動作に必要なメモリ + 20MB以上
- ハードディスクの空き容量
70MB以上(詳細については3ページを参照)

● ソフトウェア

Windows 95
Windows 98
Windows NT 4.0(Service Pack 4以上)
Windows NT 3.51(Service Pack 4以上)



ESMPRO/ServerManager(Windows 95版)では Systems Management Server(SMS)および ARCserveとの連携機能は使用できません。

● 推奨管理台数

1つのESMPRO/ServerManagerで管理できるサーバの台数に制限はありませんが、運用上、管理できるサーバの台数の目安として、以下の値を参考としてシステムを構築してください。ただし、システムに搭載しているメモリ容量やESMPRO/ServerManagerと同時に動作させるアプリケーションの有無によって管理できるサーバの台数が減少する場合があります。

ESMPRO/ServerManager(Windows NT版)250台程度

ESMPRO/ServerManager(Windows 95版)100台程度

セットアップを始める前に

インストールならびにセットアップの前に必ずお読みください。

ネットワークサービスの設定

インストールするコンピュータのネットワークに関する設定を次のようにしてください。

<Expressワークステーション / サーバおよびDMIコンポーネントのインストールされたマシンの管理を行う場合>

プロトコルはTCP/IPを使用してください。プロトコルは[コントロールパネル]の[ネットワーク]で[TCP/IPプロトコル]を選択すると設定できます。

<NetWareサーバの管理を行う場合>

TCP/IPプロトコル、およびNetWareクライアントとして使用するために必要なプロトコルをインストールしてください。

セキュリティの設定 ~ ESMPROユーザグループの設定 ~

Windows NTで動作するコンピュータにインストールする場合は、管理ツールのユーザマネージャでESMPRO/ServerManagerを使用するためのセキュリティとしてESMPROユーザグループを追加する必要があります。ここで設定したグループ名(デフォルトは「NvAdmin」)をインストール時に指定してください。



ESMPROユーザグループをグローバルグループとして登録する場合は、同じ名前のローカルグループが存在しないようにしてください。また、バックアップドメインコントローラの場合は必ずグローバルグループを指定するようにしてください。

インストール時に必要なディスク容量の確認

NTFSパーティションにESMPRO/ServerManagerをインストールする場合は、約70MBの容量が必要です。

ただし、インストールを行うドライブのクラスタサイズによって実際に必要なディスク容量は変化しますので注意が必要です。

またインストール時には、上記のディスク容量に加えて環境変数TEMPで示されるディレクトリに作業用ファイル(約10MB)が作成されます。

環境変数TEMPが設定されていない場合は、任意のディレクトリ(通常はシステムディレクトリ)に作業ファイルが作成されます。

運用中に必要なディスク容量の確認

インストール時に指定したワークディレクトリに十分な空き容量を用意して使用してください。デフォルトではWindows NT 3.51の場合にはシステムドライブの「¥WIN32APP¥ESMPRO」がワークディレクトリとして設定されています。Windows NT 4.0およびWindows 95/98の場合にはシステムドライブの「¥Program Files¥ESMPRO」が設定されています。

運用時に追加されるファイルには以下のものがあります。必要となるディスク容量を計算するときの目安にしてください。

- 統計情報自動収集

対象サーバにESMPRO/ServerAgent Ver.3.0以降がインストールされている場合は1回の情報収集につき約40KBのディスク容量が必要です。

対象サーバにESMPRO/ServerAgent Ver.2.6以前がインストールされている場合は1サーバにつき約1MBのディスク容量が必要です。

- アラート情報

アラート1件につき、約500バイトのディスク容量が必要です。

- その他

オペレーションウインドウ上に登録されたサーバの管理のために上記以外に約10MBのディスク容量が必要です。

旧バージョンのESM(PRO)/ServerManagerがすでにインストールされている場合

ESM/ServerManager Ver.2.0/2.1、または ESMPRO/ServerManager Ver.2.6/3.0/3.1/3.2/3.3がインストールされている場合は、ESMPRO/ServerManager Ver.3.4にアップデートインストールすることができます。ただし、Ver.2.6以前のESMPRO/ServerManagerの場合は、アラートデータが引き継がれません。

上記以外のバージョンのESMPRO/ServerManagerがインストールされている場合は、対応するバージョンのセットアッププログラムを使用してアンインストールした後にインストールをしてください。

他のESMPRO製品を同じマシンにインストールする場合

他のESMPRO製品よりも先にインストールしてください。

Windows NT 3.51でのESMPRO/ServerManagerの動作について

Windows NT 3.51で動作中にアプリケーションでメモリ不足が発生すると「Unexpected heap ERROR」となりESMPRO/ServerManagerを構成するサービス等のプロセスを強制終了してしまうことがあります。このような場合はメモリを増設後、システムを再起動するか、動作させるアプリケーションを少なくするなどしてメモリに空きを準備してから、ESMPRO/ServerManagerを動作させるようにしてください。

最大レジストリサイズの設定

Windows NT Workstationで動作するコンピュータにインストールする場合には、レジストリサイズを十分なサイズに変更する必要があります。最大レジストリサイズを12MB程度に変更してください。最大レジストリサイズは、[コントロールパネル]の[システム]で変更できます。

ただし、ESMPRO/ServerManagerをインストール中にレジストリクォータ不足のメッセージが表示された場合は、最大レジストリサイズをさらに大きな値に変更してください。そして、ESMPRO/ServerManagerをいったんアンインストールしてから再度、ESMPRO/ServerManagerをインストールしてください。

インストール

ESMPRO/ServerManagerのインストールはEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューから行います。

インストール前の注意事項

インストールを始める前に次の注意事項をお読みください。

ESMPRO/ServerManager(Windows 95版)

すでにESMPRO/Netvisorがインストール済みである場合は、ESMPRO/ServerManager (Windows 95版)のインストールを行う前に、次の手順に従ってESMPRO/Netvisorのサービスを停止させてください。サービスの停止を行わなくてもインストールできますが、セットアッププログラムの起動にかなりの時間がかかることがあります。

- 1 スタートボタンから、[プログラム]-[ESMPRO]の順でポイントし、[サービス制御]をクリックする。

[サービス制御]ダイアログボックスが表示されます。

- 2 一覧に表示されているすべてのサービスを停止させる。



ESMPRO/ServerManager(Windows NT版)

すでに存在するディレクトリにインストールする場合、そのディレクトリにESMPRO/ServerManagerが動作するのに必要なアクセス権が設定されていないと正常に動作できなくなります。

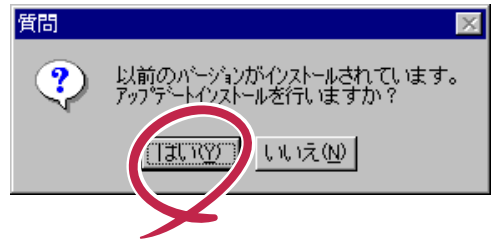
存在しないディレクトリにESMPRO/ServerManagerをインストールする場合は次のアクセス権がインストールによって設定されます。

Administrators Full Control(All)(All)
Everyone Read(RX)(RX)
NvAdmin* Full Control(All)(All)
SYSTEM Full Control(All)(All)

* インストール時に指定したESMPROユーザグループ名となります。

アップデートインストールについて

すでに ESM/ServerManager Ver.2.0/2.1または ESM/ServerManager Ver.2.6/3.0/3.1/3.2/3.3がインストールされている場合は、システムの調査終了後に右のメッセージが表示されます。画面の指示に従って処理してください。
なお、上記以外のバージョンがインストールされている場合にはアップデートインストールは行えません。対応するバージョンのセットアッププログラムを使用してアンインストールした後にインストールを行ってください。



インストール手順

- 1 ユーザ名「administrator」でログインする。
- 2 CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。



ヒント

本体に接続されたCD-ROMドライブまたはLAN Managerで接続されたネットワーク上のCD-ROMドライブでもかまいません(以下、これらをまとめて「CD-ROMドライブ」と呼びます)。



重要

Windows 95/98およびWindows NT 4.0でネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブの「MC¥1ST.EXE」を実行してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。

Windows 95/98およびWindows NT 4.0の場合はAutorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。



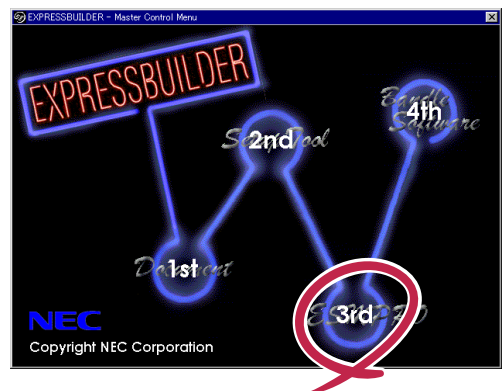
重要

Windows NT 3.51の場合はAutorun機能がないためメニューは表示されません。

- 3 <Windows 95/98およびWindows NT 4.0の場合>
[ESM/ServerManager]をクリックする。
<Windows NT 3.51の場合>

ファイルマネージャを使用し、CD-ROMの¥esmprom¥setup.batを実行する。

ESM/ServerManagerセットアップが起動し、メインメニューが表示されます。

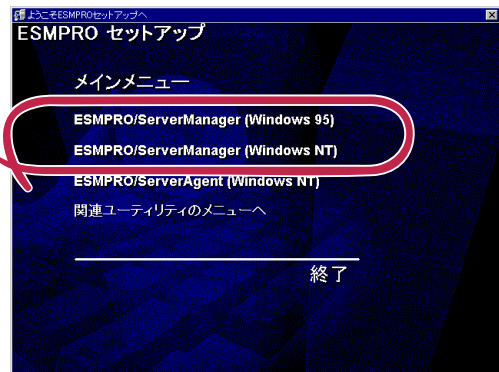


4 ESMPROセットアップのメインメニューで使用しているOSに合ったメニューを選択する。



ヒント

OSの種類に合わせて、選択できるメニューが変わります。
(インストールできないものは、グレー表示になります)



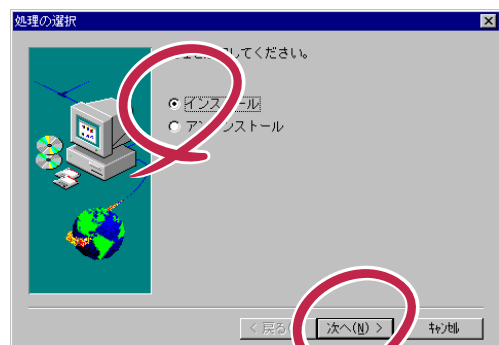
重要

- ダブルクリックでメニューを選択すると同じダイアログボックスを2つ表示することがあります。[終了] ボタンをクリックしてどちらか一方のダイアログボックスを閉じてください。
- セットアップの実行中に [キャンセル] ボタンをクリックすると、インストールを中止するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。メッセージボックスで [中止] ボタンをクリックするとインストールを中止できます(メインメニューは表示されたままです)。ただし、途中までセットアップされたファイルの削除は行われません。

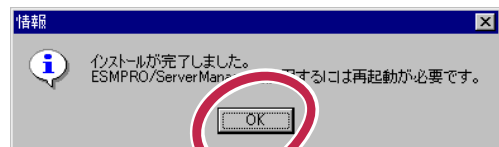
5 [インストール] をクリックし、[次へ] ボタンをクリックする。

以降はダイアログボックス中のメッセージに従って操作を進めてください。

セットアップが終了するとインストールの完了を知らせるダイアログボックスが表示されます。



6 [OK] ボタンをクリックし、システムを再起動する。



インストール後の補足説明

ESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、次の点について確認してください。

[ディスクアレイ監視について](#)

[旧バージョンのESMエージェントの管理を行う場合](#)

[セキュリティについて\(Windows NT版のみ \)](#)

[SMS等、SNMP APIを使用してSNMPトラップを受信するアプリケーションと共存する場合の制限事項](#)

[ESMPRO/ActiveRecoveryManagerおよびCLUSTERPRO/ActiveRecoveryManagerとの共存時の運用について](#)

[Remote Wake Up機能を用いて起動されるシステム側の運用上の注意](#)

[サスペンド/リジューム機能を要するマシンでの動作について](#)

[オペレーションウィンドウのアイコン登録について](#)

[データビューアを起動中にWindows 95/98をログオフさせる場合について](#)

[データビューアを起動中にWindows NTをログオフする場合について](#)

[データビューアからの DMI による電圧のしきい値設定について](#)

[管理するサーバの登録について](#)

[グラフビューアの動作について](#)

[ESMPRO/ServerManager間の通信でのDMIイベントの転送について](#)

[他のDMI管理アプリケーションとの共存について](#)

[複数のネットワークに属するESMPRO/ServerManagerマシンでDMIイベントを受信する場合](#)

[DMIでの電圧しきい値設定について](#)

[DMIコンポーネントとの共存について](#)

[DMIコンポーネントのインストールされたマシンの管理について](#)

[ESMPRO/ServerManager間の通信でのDMIイベントの転送について](#)

[2枚で構成されているDAC960ボードの監視について](#)

[高負荷状態でのESMPRO/ServerManagerの使用について](#)

[DHCPの使用について](#)

[WAN回線の使用について](#)

ディスクアレイ監視について

ESMPRO Ver.3.4のESMPRO/ServerManagerでディスクアレイを監視するためには、ディスクアレイコントローラの製造元が提供する管理ツールをインストールしておかなくてはなりません。使用するディスクアレイコントローラボードに合わせて次の管理ツールをインストールしてください。

型 名	ディスクアレイコントローラボードの種類	管理ツール名
N8503-12	Mylex DAC960PDU	Global Array Manager(Client)
N8503-18	SCSIコントローラ(ディスクアレイ用)	
N8503-19	Mylex DAC960PQ(4MB SIMM)	
N8503-28	Mylex DAC960PQ(32MB SIMM)	
N8503-36	Mylex DAC960PJ	
N8503-36A	Mylex DAC960PJ	
N8503-43	Mylex DAC1164P(3チャンネル)	
N8503-44	Mylex DAC960PTL	
N8503-49	Mylex DAC1164P(2チャンネル)	
-	本体内蔵ディスクアレイコントローラ	

表は、ESMPROがサポートするディスクアレイコントローラボードです。本装置がサポートするディスクアレイコントローラと異なる場合があります。

旧バージョンのESMエージェントの管理を行う場合

このESMPRO/ServerManagerでVer.3.2以前のESMPRO/ServerAgentを使用しているサーバも管理できます。ただし、表示できない項目があります。

ESMPRO/ServerAgent側も最新バージョンにアップデートすることをお勧めします。

セキュリティについて(Windows NT版のみ)

ESMPRO/ServerManagerを使用するためのセキュリティとして、ESMPROユーザグループを設定してください。管理ツールのユーザESMPRO/ServerManagerでESMPROユーザグループを作成し、ESMPRO/ServerManagerを使用するユーザに、この権限を与えてください。

使用するESMPROユーザグループはインストール時に指定し、デフォルト「NvAdmin」となっています。

また、このセキュリティを有効に機能させるためにESMPRO/ServerManagerは NTFS のドライブにインストールすることを推奨します。

ESMPROユーザグループをグローバルグループとして登録する場合は、同じ名前のローカルグループが存在しないようにしてください。また、バックアップドメインコントローラの場合は必ずグローバルグループを指定するようにしてください。

SMS等、SNMP APIを使用してSNMPトラップを受信するアプリケーションと共存する場合の制限事項

ESMPRO/ServerManagerとSMS等 SNMP APIを使用してSNMPトラップを受信するアプリケーションを同一マシン上にインストールする場合、以下の制限事項があります。

例としてSMSと共存する場合について説明します。説明の中で使用している用語は次のような意味を持っています。

- SMS: Microsoft Systems Management Server のクライアントまたはサーバ
- ESMPRO/ServerManager: ESMPRO/ServerManager Ver.3.4
- ESMPRO/ServerAgent: ESM/ServerManager エージェント、または ESMPRO/ServerAgent

OS	SMS 1.1と共存	SMS 1.2と共存
Windows NT 3.51	○	*1
Windows NT 4.0	-	*2

: 下記の問題が発生しますが、次に示す方法で回避できる場合があります。

*1 ESMPRO/ServerManagerのアラート受信機能が正常に動作しない。

*2 SMS 1.2のSNMPトラップ受信機能が正常に動作しない。

○: 問題ありません。

【回避策1】(*1,*2 とも)

次に説明するESMPRO/ServerAgentの「高信頼性通報機能」を使うと、ESMPRO/ServerManagerのアラート受信機能を正常に動作させることができます。

高信頼性通報機能: サーバからESMPRO/ServerManagerへのアラート転送を独自プロトコルで送信することにより、アラートを確実に転送する機能。設定手順については別売のマニュアルを参照してください。

ただし、以下の制限があります。

- SMS 1.2のSNMPトラップ受信機能の動作は保証できません。
- ESMPRO/ServerAgent(NetWare版)では高信頼性通報機能をサポートしていません。
- ESM/SM Ver.1.0のエージェントでは高信頼性通報機能をサポートしていません。
- アラートの通報先のは数は、エージェントのバージョンにより異なります。

Ver.2.0/2.1: 1カ所
Ver.2.6: 16カ所
Ver.3.0/3.1/3.2/3.3/3.4: 制限なし

【回避策2】(*2のみ)

次に説明する方法でSMS 1.2のSNMPトラップ受信機能を停止させることにより、ESMPRO/ServerManagerのアラート受信機能を正常に動作させることができます。

[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[サービス]で[SNMP Trap Service]を選択し、[スタートアップ]からサービスを[無効]状態にする。

ただし、SMS 1.2でSNMPトラップを受信することができなくなります。

【回避策3】*2のみ)

次に説明する方法でSMS 1.2のSNMPトラップ受信機能や、ESMPRO/ServerManagerのアラート受信機能を正常に動作させることができます。

ESMPRO/ServerManagerのオペレーションウィンドウから[オプション]→[カスタマイズ]→[自マネージャ]で[SNMPトラップ受信方法]を[SNMPトラップサービスを使用する]に変更する。



ヒント

この機能を使用するためには、SNMPトラップサービスが動作している必要があります。SNMPトラップサービスは、SNMPサービスを組み込むことで同時に組み込まれますが、初期状態ではサービスは開始していません。[コントロールパネル]の[サービス]を起動し、[SNMP Trap Service]を開始させてください(スタートアップの種類を[自動]に設定しておくくと便利です)。

ただし、以下の制限があります。

- NetWareサーバからのIPXプロトコルによるトラップを受信した場合、発信元のホスト名(サーバ名)を特定できません。
- オペレーションウィンドウの[オプション]→[カスタマイズ]→[動作環境]で設定する。
SNMPコミュニティ名によるトラップパケットの受信制限機能が使用できなくなります。

ESMPRO/ActiveRecoveryManagerおよびCLUSTERPRO/ActiveRecoveryManagerとの共存時の運用について

同一マシンにActiveRecoveryManagerの仮想IPアドレスを使用するプログラムとESMPRO/ServerManagerが共存する場合は、ESMPRO/ServerManagerが正常に動作できないことがあります。ESMPRO/ServerManagerを使用するときには仮想IPアドレスを使用するプログラムを停止してください。

Remote Wake Up機能を用いて起動されるシステム側の運用上の注意

Remote Wake Up機能を利用してシステムの電源をONにすると、システムの起動ドライブが正しく設定されていなかったり、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが投入されたままの状態になっている場合にはシステムが起動できない場合があります。

サスペンド/リジューム機能を要するマシンでの動作について

サスペンド/リジューム機能を使用すると、ESMPRO/ServerManagerの動作が不安定になる場合があります。この場合はサスペンド/リジューム機能を使用しないでください。

オペレーションウィンドウのアイコン登録について

オペレーションウィンドウのサーバアイコンなどを削除して同一内容のアイコンを再登録する場合は、1分以上間隔をあけてから行ってください。

アイコンを削除して、1分以内に再度、同一内容のアイコンを登録すると、アイコンの色にサーバの状態が反映されず、正常(緑色)のままとなることがあります。

この現象が発生した場合は、OSの再起動を行うことでアイコン色を正しく表示することができます。

データビューアを起動中にWindows 95/98をログオフさせる場合について

Windows 95/98をログオフする場合はデータビューアを停止後、Windows 95/98をログオフしてください。また、データビューアを起動したままの状態、Windows 95/98をログオフするとポップアップメッセージや例外画面を表示する場合があります。ポップアップメッセージや例外画面を閉じるとWindows 95/98をログオフすることができます。

データビューアを起動中にWindows NTをログオフする場合について

Windows NTをログオフする場合はデータビューアを終了後、Windows NTのログオフを行ってください。

データビューアからの DMI による電圧のしきい値設定について

データビューアから DMI による電圧のしきい値設定を行う場合、操作が完了してから設定が反映されるまでに多少時間がかかることがあります。

管理するサーバの登録について

ESMPRO/ServerManagerでサーバを管理する場合は、あらかじめオペレーションウィンドウのマップに管理するサーバの登録が必要です。オペレーションウィンドウにて自動発見を行うなどで、事前に管理するサーバを登録してください。

グラフビューアの動作について

グラフビューアを起動後すぐに最小化して、タスクバー上のグラフビューアのアイコンをクリックしても、警告音が鳴り、グラフビューアが元のサイズに戻らないことがあります。この現象はグラフビューアの初期化処理中に発生しますが、何回か操作を繰り返せば元のサイズに戻すことができます。

ESMPRO/ServerManager間の通信でのDMIイベントの転送について

ESMPRO/ServerManager間の通信ではDMIイベントは転送しません。

他のDMI管理アプリケーションとの共存について

他のDMI管理アプリケーションが同一マシンにインストールされている場合、データビューアでのDMI情報の表示やアラートビューアでのDMIイベントの受信が正常に動作しないことがあります。ESMPRO/ServerManagerと他のDMI管理アプリケーションは共存させないようにしてください。

複数のネットワークに属するESMPRO/ServerManagerマシンでDMIイベントを受信する場合

複数のネットワークに属する(複数のIPアドレスを持つ)マシンにESMPRO/ServerManagerをインストールした場合、イベント監視対象のマシンがESMPRO/ServerManagerマシンのすべてのネットワークで(すべてのIPアドレスに対して)通信可能となっていないと、イベントを受信できないことがあります。

DMIでの電圧しきい値設定について

DMIコンポーネントがインストールされたマシンが電圧のしきい値設定に対応していない場合、しきい値設定に失敗します。

DMIコンポーネントとの共存について

ローカルDMI RPCに対応していないDMIコンポーネントとESMPRO/ServerManagerが共存した場合、ESMPRO/ServerManagerから共存するDMIコンポーネントの管理はできません。

複数のネットワークに属するESMPRO/ServerManagerマシンでDMIイベントを受信する場合

複数のネットワークに属する(複数のIPアドレスを持つ)マシンからのDMIイベントは、受信できないことがあります。ESMPRO/ServerManagerに対するExpressシリーズの装置からの障害通報は従来どおりSNMPで行ってください。

DMIコンポーネントのインストールされたマシンの管理について

ESMPRO/ServerManagerはDMTF(Desktop Management Task Force)が規定している DMI (Desktop Management Interface 2.0 Conformance Requirements)に対応しています。

データビューアでは以下のMIFグループから情報を取得しています。

DMTF;Processor;001-009	Intel;Memory Controller;001
DMTF;System Memory Settings;001	Intel;Video Extensions;001
DMTF;Motherboard;001	Intel;Driver Info;001
DMTF;Keyboard;001-003	Intel;Mouse Extensions;001
DMTF;Pointing Device;001 (include mouse)	Intel;Keyboard Extensions;001
DMTF;Parallel Ports;001-003	Intel;Waveform Audio;001
DMTF;Serial Ports;001-004	Intel;MIDI Audio;001
DMTF;Disks;001-003	Intel;Auxiliary Audio;001
DMTF;General Information;001	Intel;Driver Information;002
DMTF;Memory Device;001-004	Intel;GetOSType;001
DMTF;Memory Array Mapped Addresses;001	Intel;GetOSVersion;001
DMTF;Memory Device Mapped Addresses;001	Intel;EnvironmentVars;001
DMTF;Physical Memory Array;001	Intel;NTUserEnvironmentVars;001
DMTF;Operating System;001	Intel;WinTasks16;002
DMTF;Physical Container Global Table;001-002	Intel;WinTasks32;002
DMTF;System BIOS;001	Intel;ProcessList;002
DMTF;System Cache;001-003	Intel;NTDrivers;001
DMTF;System Slot;001-004	Intel;DeviceDriverChain;002
DMTF;Video BIOS;001	Intel;Driver Extensions;001
DMTF;Video;001-004	Intel;TCPIP;001
DMTF;Network Adapter 802 Port;001	Intel;NetConnections;001
DMTF;Network Adapter Driver;001	Intel;System Resources Extensions;001
DMTF;Power Supply;001-002	LANDesk;Software;001
DMTF;Cooling Device;001-002	
DMTF;Disk Controller;001-002	
DMTF;Disks Mapping Table;001	
DMTF;FRU;001-002	
DMTF;Operational State;001-003	
DMTF;Mass Store Mapping Table;001	
DMTF;Mass Store Segment Table;001	
DMTF;Mass Store Logical Drives Table;001	
DMTF;Mass Store Array Info Table;001	
DMTF;Bus Global Table;001-002	
DMTF;Physical Expansion Sites Table;001-002	
DMTF;Power Unit Global Table;001	
DMTF;Cooling Unit Global Table;001	
DMTF;Partition;001-002	
DMTF;Logical Drives;001	
DMTF;Temperature Probe;001	
DMTF;Voltage Probe;001	
DMTF;Physical Memory;001-002	
DMTF;Monitor Resolutions;002	
DMTF;Dynamic States;001	
DMTF;Portable Battery;001-002	
DMTF;System Resources;001	
DMTF;System Resources 2;001	
DMTF;System Resource IRQ Info;001	
DMTF;System Resource DMA Info;001	
DMTF;System Resource I/O Info;001	
DMTF;System Resource Memory Info;001	
DMTF;System Resource Device Info;001-002	
Health Contributor;Disk Space;001	
Health Contributor;Disk Failure Prediction;001	
Health Contributor;Parity Error Detection;001	
Health Contributor;Virtual Memory;001	
Health Contributor;Fans;001	
Health Contributor;Temperatures;001	
Health Contributor;Voltages;001	
Health Contributor;Intrusion Detection;001	
Health Contributor;POST Error Detection;001	
Health Contributor;Boot Virus Detection;001	
Intel;Baseboard Extensions;001	

アラートビューアでは以下のMIFグループのEventを受信します。

```
EventGeneration!DMTF^^Cooling Device  
EventGeneration!DMTF^^Physical Container Global Table  
EventGeneration!DMTF^^Physical Memory Array  
EventGeneration!DMTF^^Power Supply  
EventGeneration!DMTF^^Processor  
EventGeneration!DMTF^^Temperature Probe  
EventGeneration!DMTF^^Voltage Probe  
EventGeneration!DMTF^^Disks  
EventGeneration!DMTF^^Disk Controller  
EventGeneration!DMTF^^Mass Store Logical Drives Table  
EventGeneration!Intel^^Disk Space  
EventGeneration!Intel^^Disk Failure Prediction
```

アラートビューアではDMI Eventのすべてを受信しますが、上記グループ以外か、上記グループでもDMTF標準あるいはNEC拡張以外のEvent Typeを持つ場合は、アラートタイプはUnknownとなり、データビューアとの連携は不可となります。

ESMPRO/ServerManager間の通信でのDMIイベントの転送について

ESMPRO/ServerManager間の通信ではDMIイベントは転送しません。

2枚で構成されているDAC960ボードの監視について

ESMPRO Ver.3.4のESMPRO/ServerManagerで、DAC960ボードが2枚で構成されているシステムを監視する場合、「システムドライブ」の一般情報画面にある「システムドライブを構成するユニット」の項目に情報が表示されないことがあります。

高負荷状態でのESMPRO/ServerManagerの使用について

CPU使用率100%の状態が長く続いた場合など、非常に高負荷な状態で運用した場合、「ESM Base Serviceと通信できなくなりました」というメッセージが表示される場合があります。通常ESMPROアプリケーションはESM Base Serviceとの通信を行っていますが、高負荷のため、通信がタイムアウトで切断されてしまった場合に、このメッセージが表示されます。このメッセージが表示された場合は、マシンの負荷を下げてから再度アプリケーションを起動してください。

DHCPの使用について

ESMPRO/ServerManagerはIPアドレスを元に管理を行なっています。そのためIPアドレスが動的に変わるDHCPは使用できません。

WAN回線の使用について

サーバのプロパティのサーバ状態の監視がOnになっていると、そのサーバに対して一定間隔で状態確認のためのパケットが送信されます。そのためESMPRO/ServerManager / ESMPRO/ServerAgent間がWAN回線等の場合、このパケットにより課金されますのでご注意ください。

WAN回線等で課金される場合は、サーバ状態の監視をOffに設定してください。
ただし、統合ビューア上のアイコンの色にサーバの状態が反映されなくなります。

アンインストール

ESMPRO/ServerManagerのアンインストールの方法について説明します。

アンインストール前の注意事項

アンインストールを始める前に次の注意事項をお読みください。

ESMPRO/ServerManager(Windows 95版)

- すでにESMPRO/Netvisorがインストール済みである場合は、ESMPRO/ServerManager (Windows 95版)のアンインストールを行う前に、次の手順に従ってESMPRO/Netvisorのサービスを停止させてください。サービスの停止を行わなくてもアンインストールできますが、セットアッププログラムの起動にかなりの時間がかかることがあります。

- 1 スタートボタンから、[プログラム]-[ESMPRO]の順でポイントし、[サービス制御]をクリックする。

[サービス制御]ダイアログボックスが表示されます。

- 2 一覧に表示されているすべてのサービスを停止させる。



- 何らかのサービスが起動していると、アンインストール処理が遅くなることがあります。アンインストールを行う前にスタートボタンから[プログラム]-[ESMPRO]をポイントし、[サービス制御]をクリックし表示されたダイアログボックスで一覧に表示されているすべてのサービスを停止させてからアンインストールしてください。

他のアプリケーションと共存していたときのアンインストール

- ESMPRO/ActiveRecoveryManagerおよびCLUSTERPRO/ActiveRecoveryManagerとの共存時のアンインストールについて

上記製品をインストールしている場合は、これらを先にアンインストールしてからESMPRO/ServerManagerをアンインストールしてください。

- 他のESMPRO製品との共存時のアンインストールについて

ESMPRO/ServerMangerと他のESMPRO製品が共存している場合にESMPRO/ServerMangerをアンインストールした場合は、システムを再起動してから使用を再開してください。

- ESMPRO関連製品との共存時のアンインストールについて

ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/NetvisorとESMPRO/Netvisor ルータ管理をインストールしている場合、ESMPRO/NetvisorとESMPRO/Netvisor ルータ管理をアンインストールし、ESMPRO/ServerManagerだけで運用すると、オペレーションウィンドウが「定義ファイルに不整合箇所が見つかりました。ファイル内容を修正するかファイルを削除してください。」と表示して起動できなくなります。

ダイアログボックスに表示されたファイルを削除すると起動できるようになります。次のファイルが削除対象になります。

IPM1.DEF

同様に、ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/NetvisorとESMPRO/Netvisor HUB管理をインストールしていたときに、ESMPRO/NetvisorとESMPRO/Netvisor HUB管理をアンインストールしてESMPRO/ServerManagerだけで運用しようすると、オペレーションウィンドウが「定義ファイルに不整合箇所が見つかりました。ファイル内容を修正するかファイルを削除してください。」と表示して起動できなくなります。

この場合もダイアログボックスに表示されたファイルを削除すると起動できるようになります。次のファイルが削除対象になります。

AT31OEM1.DEF

ATHUBM1.DEF

この他の組合せでもESMPRO/Netvisorと他のESMPRO関連製品を同時にインストールしている状態から、ESMPRO/Netvisorのみをアンインストールした場合やAMIB定義ファイルをユーザが独自に作成している場合に、オペレーションウィンドウが起動できなくなることがあります。この場合もダイアログに「定義ファイルに不整合箇所が見つかりました。ファイル内容を修正するかファイルを削除してください。」というメッセージとともに該当ファイル名を表示します。該当ファイルを削除あるいは修正してください。

- ESMPRO/AlertManager共存時のアンインストールについて

ESMPRO/ServerManagerがインストールされている場合は、先にESMPRO/AlertManagerをアンインストールしてから、ESMPRO/ServerManagerをアンインストールしてください。

アンインストール

アンインストールするときは次の手順に従ってください。

- 1 ESMPROフォルダを開いている場合はフォルダを閉じる。
- 2 7～8ページを参照してESMPROセットアップのメインメニューを表示させる。
- 3 メインメニューからESMPRO/ServerManagerのセットアップを起動する。

次のダイアログボックスが表示されます。

- 4 [アンインストール]をクリックし、
[次へ]ボタンをクリックする。

以降はダイアログボックス中のメッセージに従って操作を進めてください。

